

項目	自己評価	めざす児童像	主な取組内容	取組内容の評価指標	達成状況	改善方策	学校運営協議会委員コメント	評価
チャレンジ精神	S A B C	主体的に挑戦し、自らを振り返りながら目標に向かって努力することができる児童	・学級や個々の目標を設定する。 ・学校行事(鉄棒発表会・水泳大会等)に向けた取組への指導・支援を行う。 ・各取組カード(鉄棒・縄跳び・持久走等)を作成し、段階的に目標に向かわせる。 ・学級での係の仕事の意欲的にできるように配慮する。	●めざす児童像アンケート 1 主体的にチャレンジする気持ち 「そう思う」55% → 60% 2 失敗経験からの学び 「そう思う」65% → 70% 3 将来の夢や目標に努力 「そう思う」65% → 70%	●めざす児童像アンケート(6月→12月)20人 1 主体的にチャレンジする気持ち 「そう思う」55% → 55% 2 失敗経験からの学び 「そう思う」65% → 85% 3 将来の夢や目標に努力 「そう思う」65% → 60% ★目標達成の項目 2 ■感染症対策の中、新しい生活様式での学校生活において、失敗があっても学ぼうという意識が高まったと考えられる。チャレンジ精神や目標に向かって努力する気持ちを高める取組を要する。	1 児童が意欲的にチャレンジできる活動や場を設定する。 2 失敗から新しい学びを得られるように活動を工夫し、失敗を恐れぬ児童の育成を図る。 3 児童が将来の進路について考えたり、見通したりできていないことも考えられるので、キャリア教育等の充実を図る。	○発表会等に参加すると努力の成果が感じ取れる。色々なことに熱心に挑戦している。 ○失敗経験からの学びが増加しているため目標に向かって取り組んでいる傾向が見える。 ○目標を明確にしたチャレンジの場が増えると良いと思う。将来の夢、つきたい職業等について世界観を広めてほしい。	S A B C
コミュニケーション力	S A B C	場に応じた挨拶や、受け答えができ、相手の気持ちを考えながら、「話す・聞く」ができる児童	・発達段階に応じた「聞き方名人」、「話し方名人」を作成する。 ・職員室への入室マニュアルの作成し、モデルを示す。 ・縦割班(掃除)や、登校班(挨拶運動)を個々の関係性に配慮し編制する。 ・挨拶への取組強化月間を設定する。	●めざす児童像アンケート 1 自分からすすんで挨拶 「できている」70% → 75% 2 人の考えや発表を大切に聞く 「できている」75% → 80% 3 自分の考えや思いを伝える 「できている」50% → 60%	●めざす児童像アンケート(6月→12月)20人 1 自分からすすんで挨拶 「できている」70% → 75% 2 人の考えや発表を大切に聞く 「できている」75% → 70% 3 自分の考えや思いを伝える 「できている」50% → 40% ★目標達成の項目 1 ■児童はすすんで挨拶をしようという気持ちは大事であると感じており、数値は上がっている。一人一人が成長するために自他の考えを大事にして行動する意識を高める必要がある。	1 登下校の職員室への挨拶は習慣化しており、様々な場で気持ちよく挨拶できるように日頃の評価を大事にする。 2 人の考えを聞きながら、自分の考えが再構築されたりまとまったりする経験を積めるように、授業や取組を工夫する。 3 自分の考えを発表し、仲間が大事にしてくれる場の設定を工夫する。	○照れ臭さや防犯上のこともあり町内での挨拶はあまりできていないように感じる。自分から進んで挨拶できない児童もいるがこちらから挨拶すると小さい声で挨拶している。もう少し元気よく挨拶できるように取り組んでほしい。 ○ホームルーム等で自分が発表する機会を実施したらコミュニケーションの向上を図れるのではないかと。 ○言葉のキャッチボールをたくさんしてほしい。	S A B C
自尊感情	S A B C	自分や友だちの個性を大切にしながら、主体的に取り組む児童	・フラワーメッセージで、学級内外の仲間のよさを認め合う。 ・終会で「よいところ見つけ」をし、声をかけ合う。 ・SCによる授業で、学級のよさを見つけ合う。 ・ペア活動、グループ活動などで、関係づくりを進める。 ・日常的に言葉かけをし、子どもたちを評価する。	●めざす児童像アンケート 1 自分にはよいところがある 「肯定的評価」85% → 90% 2 人を思いやる心を大切に 「そう思う」90% → 100% 3 自分の考えや判断を大切に行動 「そう思う」70% → 80%	●めざす児童像アンケート(6月→12月)20人 1 自分にはよいところがある 「肯定的評価」85% → 95% 2 人を思いやる心を大切に 「そう思う」90% → 85% 3 自分の考えや判断を大切に行動 「そう思う」70% → 85% ★目標達成の項目 1,3 ■道徳の授業やフラワーメッセージなど、学校の取組の中で児童の自己肯定感が高まってきていることが窺える。仲間への思いやりの心を育て、自他共に大事にできる児童を育てることが課題である。	1 SC等を活用して、互いに認め合える活動を積極的に取り入れる。 2 フLOWERメッセージの取組内容を充実させる。 3 自分の考えが生かされ、仲間や教師から評価される場を設定する。	○発達状況からみても取り組んでいることが成果として表れている。 ○何事にも挑戦し、努力している様子が見え、結果として成果につながっている。 ○自分の悪い所を直したらどうよくなるかといった視点も良いと思う。	S A B C
郷土愛	S A B C	甲浦の地域の歴史について知り、これからの地域について考えることのできる児童	・総合的な学習の時間に地域学習を設定し、授業で郷土に対する学びを深める。 ・甲浦運動会で地域の方との交流を深める。 ・高齢者に暑中見舞い・年賀状を送り、地域の方を気遣う気持ちを育てる。	●めざす児童像アンケート 1 自分の住んでいる地域が好き 「肯定的評価」90% → 95% 2 地域の魅力を伝える 「肯定的評価」90% → 95% 3 地域に貢献できる人になる 「肯定的評価」90% → 95%	●めざす児童像アンケート(6月→12月)20人 1 自分の住んでいる地域が好き 「肯定的評価」90% → 95% 2 地域の魅力を伝える 「肯定的評価」90% → 85% 3 地域に貢献できる人になる 「肯定的評価」90% → 95% ★目標達成の項目 1,3 ■他地域への移動が少なくなり、自分たちの住む地域について改めて知ることがあったり、地域のよさを感じるようになった児童が増えていると考えられる。この気持ちを大事に育てていきたい。	1 地域の人材を生かした地域学習を積極的に取り入れる。 2 学習により学んだことを全校児童に発表したり、近隣校と交流学習するなどして、発信し合う学習活動を行う。 3 地域の方との交流の場を増やし、1,2の項目に取り組むことで、意識の向上を図る。	○コロナ禍の状況の中、十分な取り組みができないので残念だと感じる。しかし意識の向上が随分図れていることが結果からわかる。 ○地域とのことを思う児童が増えている傾向があるので、取り組みを継続させていくことが大事である。 ○シンプルに東洋町の好きなところを発表し教えて欲しい。	S A B C
学力向上	S A B C	自分で決めた計画に沿って学習したり、発表したりできる。これまでに学習してきたことや、できることを使うことができる児童	・授業改善を推進する。(自力解決・共有の時間の設定) ・加力学習で基礎学力の定着を図る。 ・放課後学習で学習内容の幅を広げ、応用力を高める。 ・自主学習で主体的に学習する力を養う。(「家庭学習の手引き」の作成)	●めざす児童像アンケート 1 課題を解決しようと積極的に取り組む 「肯定的評価」90% → 95% 2 考えを深めたり、広げたりしている 「そう思う」65% → 70% 3 家庭学習を目標時間に取り組む 「できている」80% → 90%	●めざす児童像アンケート(6月→12月)20人 1 課題を解決しようと積極的に取り組む 「肯定的評価」90% → 90% 2 考えを深めたり、広げたりしている 「そう思う」65% → 60% 3 家庭学習を目標時間に取り組む 「できている」80% → 80% ★目標達成の項目 ■目標を達成できた項目はなく、現状の中での学校の取組の改善を要すると考える。体験的な活動には制限が多い中、児童が自分の課題を見つけ、じっくり考え、意欲的に学習できる場の設定が必要である。	1 肯定的評価は高いので、課題設定を今以上に工夫し、児童が意欲的に解決しようとする授業の工夫改善を行う。 2 体験学習が制限されている中、ICTをより効果的に活用した授業づくりを進める。 3 自主学習内容の工夫や出題テーマなどを設定することで、主体的に家庭学習に臨めるようにする。	○目標や計画の達成は、自尊感情の高まりにもつながると思うので小さな計画、目標の達成の積み重ねを大事にして欲しい。 ○全体的に結果が出ているので学力や取り組みの意識が向上していると感じる。 ○コロナ禍での授業の工夫が必要である。	S A B C
生活習慣	S A B C	生活リズムの改善点を考え実践し、時間やルールが守れる児童	・保健朝礼、健康観察カード、いきいきカードなどにより意識の向上を図る。 ・月ごとに目標を設定し、振り返りをし、生活改善を図る。 ・道徳科での学びを生かす。 ・食育により、食の大切さを理解させる。 ・講演会等により、生活リズムによる影響を考えたり、改善に生かす。	●めざす児童像アンケート 1 毎日、朝食を食べている 「できている」100% → 100% 2 時間やルールなど約束を守る 「できている」85% → 90% 3 当たり前のことを当たり前にできる 「肯定的評価」95% → 100%	●めざす児童像アンケート(6月→12月)20人 1 毎日、朝食を食べている 「できている」100% → 80% 2 時間やルールなど約束を守る 「できている」85% → 75% 3 当たり前のことを当たり前にできる 「肯定的評価」95% → 95% ★目標達成の項目 ■6本の柱の中で、課題が大きい結果が出ている。学校生活・家庭生活の双方において、児童が閉塞感を感じていることは否定できない。結果として、生活習慣に影響を及ぼしているのではないかと考える。	1 強い肯定が20%も減少しており、まず原因把握に努める必要がある。その原因に基づき、効果的な取組の推進を図る。 2 月目標の守り方など、学級会の話合いを充実させ、皆が理解を深めて納得して取り組めるようにする。 3 縦割班掃除など班員が協力して取り組んでいるので、今後も意識の向上を図りながら取組を継続する。	○各家庭により生活習慣も異なるのでひとまとめの評価は難しいが、大人社会の縮小図が子ども社会であろうと思うので社会を正していく(連携していく)ことも大事だと思う。 ○早寝・早起き等の生活リズムの改善が課題だと思う。 ○達成できていない課題を分析して取り組むことが大事である。 ○目標を達成したら表彰する等も取り入れるとなお良いかと思う。	S A B C

※評価欄 評定S「優れている」、評定A「良い」、評定B「おおむね満足」、評定C「要改善」

※この評価書は、年度末に学校のホームページで公表